



申
28
号

2022年度夏季手当等に関する申し入れ

その2

2022.6.7

第3回交渉を行う!!

本部交渉団は、職場の声を団体交渉で会社にぶつけ、会社は「受け止める」と回答しました。その結果、回答は、昨年よりもプラスであり、異例として物価上昇が期末手当の水準要因になるなど、一定のたたかひの前進は確認出来ます。しかし、回答は要求と乖離し「低額回答」であり、納得が出来ません。中央本部は、第3回交渉での明らかになった問題点を組合員と議論し、今後の方向性を判断していきます。

組合の主な主張

会社の主な主張

問題点① 「見通し」「職場の努力」「物価上昇」を合わせて昨年+0.3ヶ月は少ない!

2.3ヶ月という数字には納得感はない。基準内賃金の2.3ヶ月分とした根拠は何か

■期末決算は努力と取組みがあって、大幅な改善だが、本業の力を示す営業利益は2期連続の赤字だ。この厳しい業績、財務状況が判断ベースとなる。困難な状況の中でも、チャレンジを続け実現してきた成果を受け止め、構造改革の一層の加速に期待をし、物価上昇などを総合的に加味して、最大限支給出来る水準と考え回答している

昨年回答からの増額は確認出来る。物価上昇も回答書にある。しかし、「業績動向」「足元」「見通し」の状況も踏まえて、赤字・コロナ禍で弛まぬ努力を続け、回復基調にした職場の努力に報いた額としての2.3ヶ月回答なのか

■お客さまのご利用が戻ってきているのは、把握している。まだまだ大幅な赤字だが、特に利益は大幅な改善となった。一人ひとりの尽力、厳しい決算の動向など勘案して回答している

物価上昇が無ければもっと低いのか!職場の努力はそんなに低評価なのか!!

これまで我々が訴えた物価上昇に対する主張を受け止めた回答なのか

■期末手当は、特に直近の決算を加味して、様々な要素を勘案して判断するもの。物価上昇など現在の社会情勢を総合的に勘案して、今回会社が出来る最大限の回答をした

物価上昇がなければもっと低かったのか

■切り取るのは難しい

問題点② 2.3ヶ月回答の根拠がわからない!

最大限と回答するが、2.3ヶ月回答の理由は何か

■(回答書読み上げ)最大限の回答をしている

それは回答書に記載している。2.3ヶ月の数字の根拠はあるのか

■様々な要素を加味した中で、会社が出来る最大限の回答として2.3ヶ月を回答している

問題点③ 人材流出の危機感が一致していないのではないか!?

若年の退職が止まっていない危機感がある。

■社員に安心して働いて頂くことが重要である

具体的にどのような理由で退職しているのか調べていないのか

■示すことは難しい。離職率は、HPに掲載している。それほど多くの方が増えているという現状にない

人材流出の危機感が一致していない。高い離職率ではないから、危機感を持つまでではないということか

■理由や傾向は調べている。離職者が多かろう、少なかろうと会社として調べている

問題点④ 黒字を実現しても還元しないのか!?

黒字を実現した場合、どのようなスタンスなのか

■様々な要素を勘案して決定する考え方は変わらない

出さない理由を並べる経営姿勢では、今後も出さないのは明らかだ!
職場で交渉報告を行い、何が問題なのか議論しよう!